

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-037552

(43)Date of publication of application : 12.02.1993

(51)Int.Cl.

H04L 12/54

H04L 12/58

H04M 11/00

H04N 1/00

H04N 1/00

(21)Application number : 03-175312

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 16.07.1991

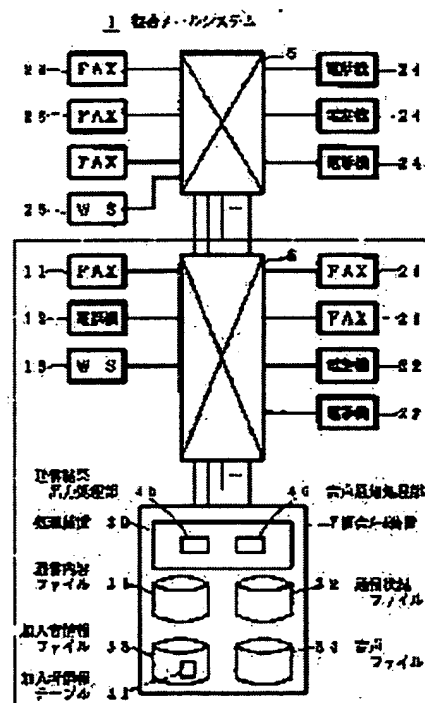
(72)Inventor : KAMIOKA TOSHIRO

(54) METHOD FOR INFORMING TRANSMISSION RESULT IN COMPOSITE MAIL SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To allow the operator of a sender requesting the transmission to a composite mail equipment to easily and surely acquire the transmission result and to check the transmission.

CONSTITUTION: This system is provided with a composite mail equipment 7 sending a communication content requested from a sender to a destination is facsimile transmission. The composite mail equipment 7 informs the sender facsimile equipment 11 of the result of transmission to the destination by facsimile transmission and informs a telephone set 12 designated by the sender of the result of facsimile transmission by a voice signal. The telephone number of the telephone set 12 is designated by registering the telephone number and the facsimile number of the sender in advance into the composite mail equipment 7.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

BEST AVAILABLE COPY

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-37552

(43) 公開日 平成5年(1993)2月12日

(51) IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 L 12/54				
12/58				
H 0 4 M 11/00	3 0 2	7117-5K		
H 0 4 N 1/00	1 0 4 Z	4226-5C		
		8529-5K		
			H 0 4 L 11/20	1 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数4(全7頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平3-175312

(22) 出願日 平成3年(1991)7月16日

(71) 出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

(72) 発明者 上岡 利朗

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

(74) 代理人 弁理士 久保 幸雄

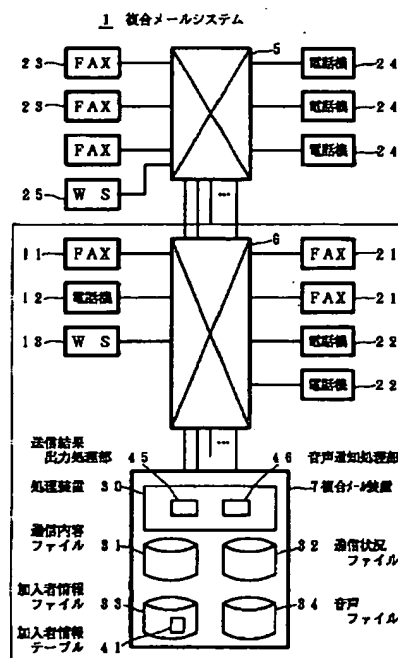
(54) 【発明の名称】 複合メールシステムにおける送信結果の通知方法

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、複合メールシステムにおける送信結果の通知方法に関し、複合メール装置に対して送信を依頼した発信元のオペレータが、その送信結果を容易に確実に手に入れてチェックを行うことを目的とする。

【構成】 発信元から依頼された通信内容を相手先にファクシミリ送信するための複合メール装置7を有した複合メールシステム1において、相手先への送信結果を、複合メール装置7から発信元のファクシミリ装置11にファクシミリ送信によって通知するとともに、送信結果をファクシミリ送信した旨を、複合メール装置7から発信元の指定した電話機12に音声で通知する。電話機12は、発信元のファクシミリ番号及び電話番号を複合メール装置7内に予め登録することによって指定する。

本発明に係る複合メールシステムの構成を示すブロック図



【特許請求の範囲】

【請求項1】発信元から依頼された通信内容を相手先にファクシミリ送信するための複合メール装置(7)を有した複合メールシステム(1)において、相手先への送信結果(RTX)を、前記複合メール装置(7)から発信元のファクシミリ装置(11)にファクシミリ送信によって通知するとともに、前記送信結果をファクシミリ送信した旨を、前記複合メール装置(7)から発信元の指定した電話機(12)に音声で通知することを特徴とする複合メールシステムにおける送信結果の通知方法。

【請求項2】前記電話機(12)は、発信元のファクシミリ番号(NFAX)及び電話番号(NTTEL)を前記複合メール装置(7)内に予め登録することによって指定することを特徴とする請求項1記載の複合メールシステムにおける送信結果の通知方法。

【請求項3】電話機(12)への音声による通知は、送信結果のファクシミリ送信が完了した後で行うことを特徴とする請求項1又は請求項2記載の複合メールシステムにおける送信結果の通知方法。

【請求項4】発信元から依頼された通信内容を相手先にファクシミリ送信するための複合メール装置(7)であって、

通信内容を格納するための通信内容ファイル(31)と、

通信状況を格納するための通信状況ファイル(32)と、

当該複合メール装置(7)にアクセスする加入者について、各加入者のファクシミリ番号(NFAX)及び電話番号(NTTEL)を格納した加入者情報テーブル(41)と、

音声情報を格納する音声ファイル(34)と、

発信元から依頼された相手先への送信結果(RTX)を、前記通信状況ファイル(32)に基づいて発信元のファクシミリ装置(11)にファクシミリ送信によって通知するための送信結果出力処理部(45)と、

前記送信結果をファクシミリ送信した旨を、前記音声ファイル(34)に基づいて発信元の電話機(12)に音声で通知する音声通知処理部(46)とを有してなることを特徴とする複合メール装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、複合メールシステムにおける送信結果の通知方法に関する。近年におけるコンピュータとファクシミリ装置の急速な普及を背景として、ファクシミリ装置によってイメージデータを送るファクシミリメールシステム、電話機によって音声を送るボイスメールシステムなど、種々の電子メールシステムが運用され人気を呼んでいる。

【0002】さらには、複数の電子メールシステムを組

み合わせた複合メールシステムが、特に金融業界又は流通業界などにおいて需要の高まりを見せている。複合メールシステムのサービス機能の1つに、同一の通信内容を複数の相手先にファクシミリ送信する同報通信サービスがある。同報通信サービスを利用すると、発信元のファクシミリ装置から複合メール装置に対して1回の送信を行っておくことによって、指定した全ての相手先に対して複合メール装置が自動的に送信してくれるので、発信元のオペレータの手間が大幅に省ける。

【0003】しかも、複合メール装置の有する回線数に反比例して、同報通信を実際に開始してから完了するまでの時間が短縮されるので、1回線では何日もかかる程の多数の相手先に対しても、通信中などで送信できない相手先を除いて短時間で送信を完了することが可能となる。

【0004】このように、多数の相手先に対する種々の送信が自動的に行われるようになると、その送信状況又は送信結果がどのようなになっているか、つまり各相手先に対して良好に送信が行えたのか否かを、発信元のオペレータがタイムリーに確実に確認できることが望まれる。

【0005】

【従来の技術】従来の複合メールシステムにおいて、発信元から同報通信が依頼され、複合メール装置が指定された相手先に対して同報通信を行った場合に、その送信結果を発信元のオペレータに通知する方法として次の2つがある。

【0006】1つは、発信元の指定した電話機に対して送信結果を音声で通知する方法であり、他の1つは、発信元の指定したファクシミリ装置に対して送信結果の一覧表を出力して通知する方法である。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前者の音声による通知方法では、通知電話を受けたオペレータが送信結果を実際にチェックすることが容易ではない。特に、相手先が多数である場合には、音声のみによってチェックし必要な処置をとることは非常に難しい。

【0008】これに対して、後者のファクシミリによる通知方法では、一覧表として記録が残るため、オペレータのチェックが容易である。したがって、多数の相手先への同報通信を行う場合、その結果通知は、ファクシミリによる通知方法が通常用いられる。ところが、複合メール装置では、相手先のファクシミリ装置が通信中などのため送信できなかった場合に再送を行う機能を有している。したがって、再送を行うような状況の場合には、その相手先に対する送信が何時完了するかは不定である。特に多数の相手先への同報通信を行う場合には、そのような不確定要素が一層多く含まれることになる。

【0009】そのため、発信元のオペレータは、送信結果がファクシミリ装置に何時出力されるのかを予想する

ことができないという問題があった。したがって、仕事
中のオペレータ又は担当者が、送信結果の出力の確認
のためにファクシミリ装置の設置されている場所まで随時
行かなければならず、その仕事を頻繁に中断しなければ
ならなかった。

【0010】また、送信結果が出力されているにも係わ
らずそれに気が付かないため、他のファクシミリ通信の
出力に紛れて紛失してしまい、その送信結果を確認する
ことができないといった事態の発生する恐れもあった。

【0011】本発明は、上述の問題に鑑み、複合メール
装置に対して送信を依頼した発信元のオペレータが、そ
の送信結果を容易に確実に手に入れてチェックを行うこ
とのできる送信結果の通知方法、及びそのための複合メ
ール装置を提供することを目的としている。

【0012】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明に係る通
知方法は、上述の課題を解決するため、図1及び図3に
示すように、発信元から依頼された通信内容を相手先に
ファクシミリ送信するための複合メール装置7を有した
複合メールシステム1において、相手先への送信結果R
TXを、前記複合メール装置7から発信元のファクシミ
リ装置11にファクシミリ送信によって通知するととも
に、前記送信結果をファクシミリ送信した旨を、前記複
合メール装置7から発信元の指定した電話機12に音声
で通知する。

【0013】請求項2の発明に係る通知方法において、
前記電話機12は、発信元のファクシミリ番号N F A X
及び電話番号N T E Lを前記複合メール装置7内に予め
登録することによって指定する。

【0014】請求項3の発明に係る通知方法において、
電話機12への音声による通知は、送信結果のファクシ
ミリ送信が完了した後で行う。請求項4の発明に係る複
合メール装置7は、通信内容を格納するための通信内容
ファイル31と、通信状況を格納するための通信状況フ
ァイル32と、当該複合メール装置7にアクセスする加
入者について、各加入者のファクシミリ番号N F A X及
び電話番号N T E Lを格納した加入者情報テーブル41
と、音声情報を格納する音声ファイル34と、発信元か
ら依頼された相手先への送信結果R T Xを、前記通信状
況ファイル32に基づいて発信元のファクシミリ装置1
1にファクシミリ送信によって通知するための送信結果
出力処理部45と、前記送信結果をファクシミリ送信し
た旨を、前記音声ファイル34に基づいて発信元の電話
機12に音声で通知する音声通知処理部46とを有して
構成される。

【0015】

【作用】発信元から複合メール装置7に送信を依頼する
と、複合メール装置7は、即座に又は所定の時刻になっ
たときに相手先に対して依頼された通信内容の送信を実
行する。送信のための所定の手順が終了すると、複合メ

ール装置7は発信元に対して送信結果を出力する。そし
て、発信元から指定された電話機12に対して、送信結
果をファクシミリ通信によって通知した旨を、音声で通
知する。

【0016】

【実施例】図1は本発明に係る複合メールシステム1の
構成を示すブロック図である。複合メールシステム1
は、電話局の交換機5に多数の回線によって接続された
構内交換機6、構内交換機6に接続され構内交換機6の
近辺に設置された複合メール装置7、構内交換機6に内
線によって接続されたファクシミリ装置11、電話機1
2、ワークステーション13、及び多数のファクシミリ
装置21、21…、電話機22、22…などからなってい
る。

【0017】また、当然のことながら、交換機5には多
数のファクシミリ装置23、23…、電話機24、24
…、及びワークステーション25、25…、さらには他
の構内交換機などが接続されている。複合メール装置7
は、処理装置30、通信内容ファイル31、通信状況フ
ァイル32、加入者情報ファイル33、及び音声ファイ
ル34などから構成されている。

【0018】通信内容ファイル31には、複合メール装
置7に対して同報通信などを依頼したときに発信元から
送信された通信内容が、依頼した発信元の識別符号I D
などとともに格納される。

【0019】通信状況ファイル32には、複合メール装
置7が受け付けた通信について、その通信状況が動的に
格納される。通信状況としては、例えば、現在送信中
であることを示す「送信中」、送信が完了したことを示す
「送信完了」、送信時刻又は再送時刻を待っている状態
又は送信時刻を経過しているが相手先が多数であるため
に送信の順番を待っている状態などを示す「送信待ち」、
所定の手順により送信及び再送を行ったが送信できな
かった状態を示す「不達」がある。

【0020】加入者情報ファイル33には、複合メール
装置7にアクセスする加入者についての情報である加入
者情報テーブル41が多数格納されている。図2は加入
者情報テーブル41の内容の一例を示す図である。

【0021】加入者情報テーブル41には、識別符号I
D、ファクシミリ番号N F A X、電話番号N T E Lを始
めとして、複合メール装置7から加入者への通知をする
場合の出力対象、再送を行う場合の時間間隔及び回数な
ど、加入者についての又は加入者が指定すべき種々のバ
ラメータが格納されている。

【0022】これらのパラメータは、複合メール装置7
に設けられた図示しないコンソール、ワークステーショ
ン13のコンソール、電話機12、22、24などを用
い、必要によりパスワードを入力することによって、加
入者又は担当者が設定を行うことができる。設定を行わ
なかったパラメータについては、複合メール装置7によ

ってデフォルト値が設定される。

【0023】音声ファイル34には、種々のメッセージなどについての音声データが格納されている。音声ファイル34の内容は、処理装置30によって、又は図示しない専用の音声合成装置によって音声に変換される。

【0024】処理装置30は、外線又は内線を通じて通信の依頼を受け付ける処理、及び受け付けた通信を実際に行う処理などを実行し、複合メール装置7の全体を制御する。

【0025】また、処理装置30には、発信元から依頼された相手先への送信結果通知42を通信状況ファイル32に基づいて発信元のファクシミリ装置11にファクシミリ送信によって通知するための送信結果出力処理部45、及び送信結果通知42をファクシミリ送信した旨を音声ファイル34に基づいて発信元の電話機12に音声で通知する音声通知処理部46が設けられている。これら送信結果出力処理部45及び音声通知処理部46は、処理装置30内においてプログラムを実行することによって実現される。

【0026】また、図示は省略したが、複合メール装置7には、同報通信を行う場合の相手先リストが種々登録されており、発信元が複合メール装置7に対して同報通信を依頼する場合には、そのリスト名によって相手先を一括して指定できるようになっている。

【0027】ワークステーション13は、ディスプレイ装置及びキーボードを備えており、構内交換機6又は交換機5を介してファクシミリ装置11、21、23、電話機12、22、24、及び他のワークステーションなどと接続可能となっている。ワークステーション13は、キーボードからの操作によって、複合メール装置7の通信状況ファイル32の内容を画面に表示させることも可能である。

【0028】図3は複合メール装置7からファクシミリ装置11、21、23に出力される送信結果通知42の一例を示す図である。送信結果通知42には、発信元の氏名である発信者TXR、発信者TXRの識別符号IDT、所属SEC、受付番号NRE、終了時刻TMEなどを標題として、相手先である受信者名NRX、そのファクシミリ番号NFAR、送信結果RTX、配達時刻TMD、及び枚数QTYなどが記録されている。

【0029】なお、ここで、受付番号NREとは、発信元から複合メール装置7に対して依頼する1件毎の番号であり、配達時刻TMDは依頼された通信についての送信を終了した時刻である。送信結果RTXとしては、「送信完了」「不達」が記入される。

【0030】次に、複合メールシステム1を利用して同報通信を行った場合の動作及び手順について、図4に示すフローチャートを参照して説明する。なお、発信元のオペレータは、ファクシミリ装置11及び電話機12を加入者情報テーブル41に登録しており、これらの機器

を使用して複合メール装置7に同報通信を依頼するものとする。

【0031】まず、発信元のオペレータは、ファクシミリ装置11によって、自分の識別符号IDの入力、サービス内容の指定、相手先の識別符号IDT又は相手先リストの指定などを行った後、通信内容を記載した原稿を送信し、これによって複合メール装置7に同報通信を依頼する(ステップ#11)。

【0032】そうすると、複合メール装置7の処理装置30は、通信内容を通信内容ファイル31に格納し、即座に又は所定の時刻になったときに、指定されたファクシミリ装置21、23に対して同報通信を実行する(ステップ#12)。

【0033】そして、送信ができなかった相手先に対しては、所定の時間間隔の後、再送を行う(ステップ#13)。その時々通信状況が、通信状況ファイル32に格納される。

【0034】同報通信のための所定の手順が一通り終了した後で、処理装置30は通信状況ファイル32から通信状況データを取り出し、その同報通信の送信結果通知42を発信元のファクシミリ装置11に対してファクシミリ送信する(ステップ#14)。この場合には、加入者情報テーブル41のファクシミリ番号NFAXが参照される。

【0035】ファクシミリによる送信結果通知42の送信が完了した時点で、処理装置30は、送信結果通知42を出力した旨のメッセージを音声ファイル34に基づいて発信元の電話機12に音声で通知する(ステップ#15)。

【0036】電話による出力通知を受けた発信元のオペレータは、ファクシミリ装置11が離れている場合にはそれが設置されている場所まで行き、そこに出力されている送信結果通知42を見て送信結果RTXを容易にチェックすることができる。

【0037】このように、発信元のオペレータが指定した電話機12へ音声によって出力通知がかかってくるので、オペレータ又はオペレータに依頼された担当者は、出力通知があるまで他の仕事に専念することができ、従来のように送信結果通知42が出力されたかどうかを確認するために仕事を中断する必要がなくなる。

【0038】そして、音声による出力通知によって、ファクシミリ装置11から送信結果通知42の出力されたことが容易に且つ確実に分かるので、送信結果通知42を確実に確保することができ、従来のように他のファクシミリ通信の出力に紛れて紛失してしまうことがなくなる。

【0039】一般に、構内交換機6や複合メール装置7が設置されている場合には、多数の電話機が設置された多人数の事業所であり、1台のファクシミリ装置11を多人数で共用していると考えられるため、上述の効果は

より一層顕著である。

【0040】また、音声による出力通知を行うタイミングを、送信結果通知42をファクシミリ装置11に出力した後としているため、ファクシミリ装置11が使用中などのために送信結果通知42が出力されないにもかかわらず音声による出力通知が出されるといった混乱が防止される。

【0041】音声による出力通知のメッセージの内容としては、例えば、「識別符号○○○、○○○様の送信結果通知が出力されました」とすればよい。またこれに

10 受付番号NREを追加してもよい。
【0042】このように、音声による出力通知のメッセージの中に識別符号及び発信元オペレータ名を含ませることによって、実際に電話を受けた者が発信元オペレータでなかった場合にも、それを発信元オペレータに通知すること、又は発信元オペレータに代わって送信結果通知42を取りに行くことが可能となる。

【0043】上述の実施例において、音声によるメッセージの内容は種々変更することができる。例えば、出力通知を知らせるための符号又はコード番号でもよく、又は

20 単なる合図のための信号音でもよい。出力通知を行う電話機12を加入者情報テーブル41によって指定しているが、これとは別に、発信元から複合メール装置7に対して依頼する際に個別に指定してもよい。
【0044】上述の実施例においては、発信元から複合メール装置7に対して同報通信を依頼した場合について説明したが、同報通信以外の種々の複合メールシステム1によるサービス機能を使用した場合にも本発明を適用することができる。

【0045】上述の実施例において、加入者情報テーブル41の内容、複合メール装置7又はその各部の構成、複合メール装置7の処理内容、処理順序、構内交換機6の構成、接続される回線数などは、上述した以外に種々変更することができる。また、本発明を適用する複合メールシステム1として、上述した以外の種々の構成とす

ることができる。

【0046】

【発明の効果】本発明によると、複合メール装置に対して送信を依頼した発信元オペレータが、その送信結果を容易に確実に手に入れてチェックを行うことができる。請求項2の発明によると、出力通知を受けるための電話機の指定が容易である。

【0047】請求項3の発明によると、ファクシミリ装置が使用中などのために送信結果通知が出力されないにもかかわらず音声による出力通知が出されるといった混乱が防止される。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る複合メールシステムの構成を示すブロック図である。

【図2】加入者情報テーブルの内容の一例を示す図である。

【図3】複合メール装置からファクシミリ装置に出力される送信結果通知の一例を示す図である。

【図4】同報通信を行った場合の動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 複合メールシステム
- 7 複合メール装置
- 11 ファクシミリ装置
- 12 電話機
- 31 通信内容ファイル
- 32 通信状況ファイル
- 34 音声ファイル
- 41 加入者情報テーブル
- 45 送信結果出力処理部
- 46 音声通知処理部
- RTX 送信結果
- NFAX ファクシミリ番号
- NTEL 電話番号

【図2】

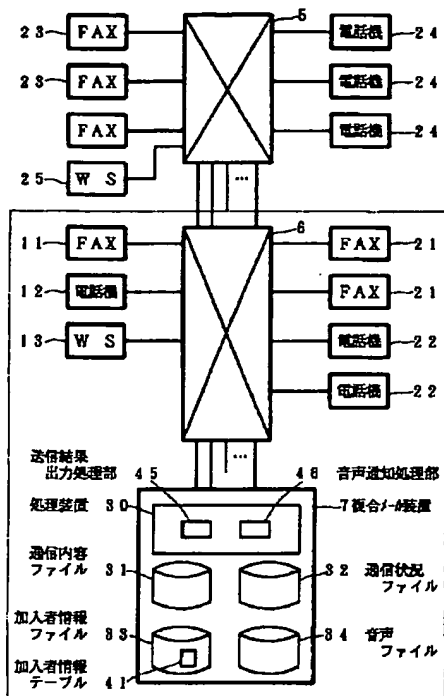
加入者情報テーブルの内容の一例を示す図

41 加入者情報テーブル	
ID	識別符号
NFAX	FAX番号
NTEL	電話番号

【例 3】

複合メール装置からファクシミリ装置に出力される
送信結果通知の一例を示す図

1 複合メールシステム

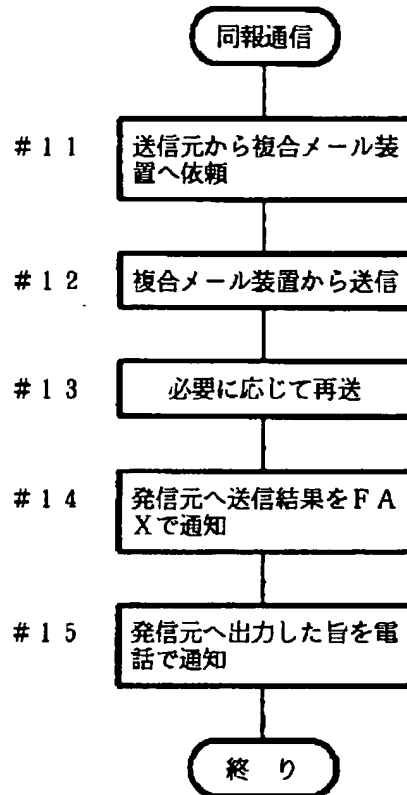


送信結果通知				
TXR 発信者	IDT 識別符号	SEC 所属	NRE 受付番号	TME 終了時刻
NFAR FAX番号			RTX 送信結果	TMD 配送時刻
QTY 枚数				
AA	AA	1235678	完了	10/22 16:00
BB	BB	2343456	不達	10/22 16:00

BEST AVAILABLE COPY

【図4】

同報通信を行った場合の動作を示すフローチャート



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁵

H04N 1/00

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

106 Z 4226-5C